

「リレー提言①」門連の歩みと次代への発信 門連でなければやれぬこと



門下連合会 監査 持田日勇
日蓮宗本山藻原寺貫首

私が日蓮宗宗務院に入ったのは昭和三十八年三月一日であった。金子内局が成立して、佐久間智周師から推薦されて総務部に入らされた。そして早速与えられた仕事のひとつが日蓮聖人門下連合会の発足であった。

日蓮聖人門下連合会の発足は昭和三十四年のことである。

昭和三十四年十二月八日に日蓮聖人門下懇話会設立会議が日蓮宗宗務院で開催され、日蓮宗、法華宗陣門流、法華宗真門流、国柱会の各代表が出席して設立に同意した。日蓮宗・及川真学師、法華宗陣門流・村上恭学師、法華宗真門流・美崎智啓師、国柱会・星野武男先生の四名が設立準備委員となった。設立準備委員会は分担して日蓮聖人門下各派に参加を求め方針を決めた。

翌年一月二十九日に発足会議が日蓮宗宗務院で開催された。更に二月八日、二十五日に参加教団の全体会議を開き、名称を日蓮聖人門下連合会とし組織を整えた。

日蓮聖人門下連合会（以下、門連とする）はその後毎年の会議を開催して意思の疎通を図ってきた。

昭和三十七年九月十八日の門連会議は画期的で、御降誕七百五十年慶讃共同事業、身延山祖廟御真骨問題、輪番参拝の実施などが協議された。

このような経緯の中で、昭和三十八年に発足した金子内局は門連の強化を図ろうとした。

同年六月二十七日に門連会議を日蓮宗宗務院で開催し、規約を改正して理事長、常任理事、理事制を取ることにした。この時の素案作成に関与したのが私の門連との具体的関わり初めであった。

私は宗務院を金子総長の退任と同時に昭和三十九年の十二月に辞めたが、その後、昭和四十七年の七月二

十一日に総務課長として奉職した。

昭和四十七年は宗祖御降誕七百五十年後会の年であり、その総括として昭和四十八年の十一月末に日蓮宗の慶讃会の解散式を厳修し、昭和四十九年三月に慶讃紀要を発行した。また、この年は昭和五十六年に迎える日蓮聖人七百遠忌の報恩事業を企画立案する時機でもあった。

既に昭和四十七年三月の第二十七定期宗会で遠忌奉行準備委員会規程が制定されていたが、準備委員の任命事務から準備委員会に提案する素案の作成を行い、昭和四十九年三月の第三十二定期宗会において宗祖七百遠忌報恩奉行会規程が制定され、五月二十三日には報恩奉行会事務局が発足し、総務課長として事務局課長を兼任した。

総務課長の職責の一つが門連に関することであり、中山妙空との合同、法華経寺の復帰、日蓮宗加行所の一本化、新荒行堂の建設の事務処理を行い、門連共同事業の策定を開始した時期でもあった。

昭和五十年七月九日、神田学士会館に於いて門連常任理事会が開催され、門連の共同事業の大綱が決定された。その中に「オラトリオ日蓮聖人」制作と日蓮聖人劇の上演が含まれていた。

私は昭和五十年七月二十一日に宗会議員補欠選挙に立候補するために総務課長を退職し、門連の仕事から離れたが、昭和五十四年七月に日蓮聖人七百遠忌報恩奉行会の事務局長に就任して、また門連との関わりを持つようになった。

既に門連の最初の事業である日蓮聖人劇の第一部は、五月中旬の東京公演から始まり、大阪、京都でも行われ、名古屋公演を残しながら、地方各地での巡業、買い取り公演が始

まったところであった。百三十三ステージの公演が全国で行われ、約五万八千人の観客動員を記録したのである。

門連事業は従来総務部で行っていたが、私が遠忌事務局長に就任することによって遠忌事務局で取り扱うこととした。それが後に「青年の船」で効果を発揮することとなる。

日蓮聖人劇の第二部は、昭和五十六年七月から十一月にかけて百二ステージ公演が全国で上演され、約五万二千人が観劇した。

日蓮聖人展の開催は昭和五十一年に追加決定されたものであるが、読売新聞社の共催をえて、昭和五十六年の四月から五月にかけて大阪阪神百貨店、東京上野松坂屋、博多井筒屋において開催され、十万人余の観客を集めることが出来た。

日蓮聖人劇も日蓮聖人展も集客が大変なことであり、日蓮宗が六割から七割の動員を行ったとはいえ、門下連合会各教団の努力がなくては十万人を超す人々を集めることは難しい事であった。

「オラトリオ日蓮聖人」の作曲は黛敏郎氏によって昭和五十六年初頭には完成していたが、上演に至るまでが大変であった。何しろ関心が低いのである。「オラトリオ」って何だね、というところである。何が何でも上演しなければならぬと、大変な編曲料を支払って演奏用にし、昭和五十七年の四月に新宿文化センターにて開演した。当初の心配はよそに、多大な感銘を受ける内容であった。費用の捻出と後世に残すためにライブレコードを制作したが、C

D・MDの時代となった今ではあまり聞かなくなっているが、残念である。「青年の船」を浮かべるといふ発想

が何時、何処から生まれたのかはつまびらかに知らぬ。昭和五十三年秋季の京都理事會に提案されて、とにかく企画をだしてみろということになったらしいのである。何しろ核となる予算措置が講ぜられず、高額の参加費用を取ってまかなうというのでは、とても無理であろうというのには当然である。子供が大騒ぎを起しているようなもので、その内熱も冷めるだろうと考えていたのが実情であつたらう。しかし、惜しくも遷化した好漢・富川孝恭教務課長が事に触れ折に付け懇請し、陳情した。「門連に予備費がない。日蓮劇の収益金でも取っておけばともかく、準備金もないのだから出さなければならぬ。日蓮宗で全部持つ覚悟でなければ出来ない。そんなこと出来るか」「それは分かっているのですが、ぜひ局長さんのお力で実現して下さい」との一点張りであった。しかし、この企画は実現できた素晴らしい。また、企画委員の熱気をみてみると、やらしてみるかという気になってきた。二千万円余の新規支出を用意するからやってみろ、ということにした。

昭和五十五年五月二十二日に開催された常任理事会において、日蓮宗が責任を持つから実行させようではないかと主張した。各教団に持ち帰った結果、九月一日に再度開いた常任理事会において決定をみたのである。

それから大変であったのは、日蓮宗で三百人の参加者を確保することであった。各宗務所長の了解を得て宗務所ごとに参加者を割り当て、横浜までの車代と宿泊費を持つこととして協力を得たのである。

このような門連事業の経験から核となる「オラトリオ」ができれば必ず成功することを学んできた。一宗派で出来ないこと、また一宗派でやっつけたいこと、それが門連という組織で協力しあえば必ず出来るということが確信されたと思う。立教開宗七百五十年慶讃の門連共同事業「大日蓮展」の成功は、更にそれを裏付けたことであろう。

普段は毎年行う日蓮宗宗務院での常任理事会、身延山で行う祖廟輪番、京都で行う理事会でよい。五十年ずつ来る「降誕」「開宗」「遠忌」に向

けて力を携えて共同事業をいかに行うか。門連は昭和三十四年に発足してから四十六年になる。平成二十一年には門連結成五十年を、立正安国論奏進・国諱七百五十年を記念して、寿ぎたいものである。

世界は科学文明の進歩によってグローバル化が進み、宗教の影響するところが大変大きい。そのときにあって、日蓮聖人門下が「勝劣だ」

「一致だ」といつている時代ではないと思える。日蓮聖人の本旨に立ち返って、共に手を携えていかなければならない。

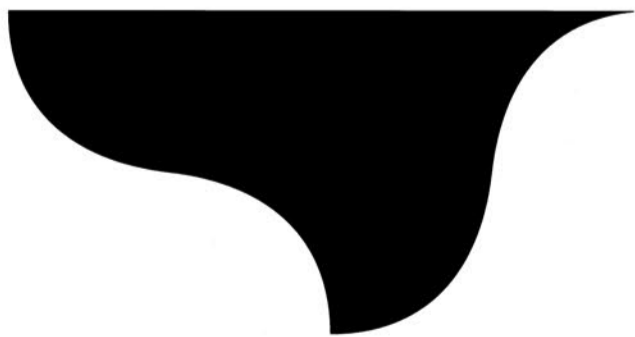
また祖廟輪番についても、祖廟に御真骨が少ない、御真骨堂に多くが格護されているのは何事だという論がある。仏舍利は宝塔に格護されるのが相応しい。しかし、いま宝塔に格護されている仏舎利の如何にすく

ないことか。インドでは、ヒンズー教徒は火葬にしてガンジス河に流すから墓を持たない。イスラム教徒は土葬なので墓を持つ。東南アジアでは、焼骨は寺院の壁に棚を造って安置する。ヨーロッパのキリスト教国では、偉人は人が歩く寺院の床に棺桶に入って葬られている。いたずらに形式にとらわれずに理解しあいたいものである。

東急観光から

トップツアーへ

～ 夢へ翔びたつ青い鳥。わたしたちがトップツアーです。～



TOPTOUR

2006年1月31日、創立50周年、

「東急観光株式会社」は「トップツアー株式会社」へ社名を変更します。

いま私たちは新しい未来へ向かって羽ばたき始めました。

平成二十一年七月十六日は立正安国論奏進七五〇年を迎えます

日蓮聖人門下連合会

(平成十八年二月現在)



日蓮宗宗務院

管長 藤井 日光 財務部長 駒野 教源
宗務総長 小松 淨慎 宗務総長室長 長 亮行
伝道局長 伊東 隆司 現代宗教研究所長 田澤 元泰
総務局長 張田 珠潮 参 与 堀江 宏正
伝道部長 梶山 寛潮 参 与 浅井 玄裕
教務部長 渡辺 照敏 日蓮宗新聞社長 伊東 正光
総務部長 藤岡 映邦

〒146-8544 東京都大田区池上一-三二-一五
電話 〇三(三三三)七五二-七一八一
FAX 〇三(三三三)七五二-七一八六

法華宗(本門流)宗務院

管長 岡本 日巨
宗務総長 原井 慈鳳
教学部長 桃井 晋城
教化部長 杉村 眞宏
庶務部長 矢吹 慈英
財務部長 加藤 信淨

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町二-一九-一
電話 〇三(五六一)四三〇五五代
FAX 〇三(五六一)四三〇五六

顕本法華宗宗務院

管長 中山 日唳
宗務総長 中村 通義
宗務次長 島田 幸晴
財務部長 藤崎 行学
布教部長 早川 義正
教務部長 桑村 信慶
社会部長 多門 顕正
庶務部長 津村 乘信

〒606-0015 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九二)七二七一
FAX 〇七五(七九二)七二六七

法華宗(陣門流)宗務院

管長 椿澤 日壽
宗務総長 土屋 善敬
総務部長 佐古 弘文
教学部長 門谷 東生
財務部長 八木 恵岳
教化部長 佐古 大弦
宗務参事 大島 崇皞

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨五-三三-一六
電話 〇三(三三九)一八七二九〇
FAX 〇三(三三九)一八七二九一

本門佛立宗宗務本庁

講 有 小山 日誠
講 尊 梶本 日裔
講 尊 野崎 日丞
宗務総長 山内 日開
宗務副総長 石田 日奥
宗務副総長 嶋田 幾雄

〒602-8377 京都市上京区御前通一条上る東堅町二〇番地
電話 〇七五(四六二)一一六六代
FAX 〇七五(四六四)五五九九

日蓮本宗宗務院

管長 嘉儀 日有
宗務総長 桐生 信行
総務部長 岩崎 広義
財務部長 渡邊 光顕
教務部長 西尾 弘道

〒606-8362 京都市左京区新倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話 〇七五(七七二)三三三九〇
FAX 〇七五(七七二)五九一四

法華宗(真門流)宗務庁

管長 上川 日乾
宗務総長 竹内 正道
総務部長 上田 浩岳
教学部長 辻本 寛孝
教化部長 木村 完祥
財務部長 堀村 智泰
社会部長 井上 隆啓
主事 本多 信正
主事 足立 真正
主事 山口 英泰

〒602-8447 京都市上京区智恵光院通り五上ル紋屋町三三〇
電話 〇七五(四四二)五七六二
FAX 〇七五(四四二)五七六六

本門法華宗宗務院

管長 高邊 日援
宗務総長 信隆 日系
宗務部長 増田 隆雄
財務部長 吉村 頼彦
教務部長 土畑 信教
庶務部長 真鍋 隆全
門連常任理事 山下 通雄

〒602-8418 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺内
電話 〇七五(四五二)三五二七
FAX 〇七五(四五二)三五九七

宗教法人 国柱会

賛主 田中 壮谷
理事長 安中 又六
門連理事 井上 建一
門連理事 相澤 宏明
門連理事 森山 真治
編集委員

〒132-0024 東京都江戸川区一之江六一-一九-一八
電話 〇三(三六五六)七二二一〇
FAX 〇三(三六五六)九九八〇
http://www.kokuchukai.or.jp

京都日蓮聖人門下連合会

會長 中山 日唳
副會長 久村 日鑒
理事長 大川 定信
副理事長 杉若 惠隆

京門連事務局
〒606-0015 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九二)七二七一
FAX 〇七五(七九二)七二六七

日本山妙法寺大僧伽

首座 塙 行幸
長老 石山 定光
長老 吉田 行典
長老 酒井 天信
長老 今井 行康
長老 二宮 和嘉
長老 池田 行朗

日本山妙法寺大僧伽事務局
〒206-0812 東京都稲城市矢野口三五七一番地
電話 〇四二(三七八)三三九五
FAX 〇四二(三七八)〇七四四



平成21年7月16日は立正安国論 奏進750年を迎えます

日蓮聖人門下連合会

(平成18年2月現在)

<p>法華宗(陣門流)総本山 本成寺</p> <p>〒955 0845 新潟県三条市西本成寺一―一―二〇 電話 〇二五六(三三)〇〇〇八</p> <p>貴首 榎澤 日壽 執事 栗田 孝之 執事 平井 良正 執事 鈴木 顕正 執事 高橋 俊二 執事 荒川 公孝 執事 西山 聡達</p>	<p>顕本法華宗総本山 妙満寺</p> <p>〒606 0015 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一 電話 〇七五(七九)七一一 FAX 〇七五(七九)七二六七</p> <p>貴首 中山 日暁 事務 島田 幸晴 執事 山本 晃道 執事 中村 英司 執事 湯原 正純 執事 小川 正義</p>	<p>日蓮宗大本山 池上本門寺</p> <p>〒146 8576 東京都大田区池上一―一―一 電話 〇三(三七五)二二三一 FAX 〇三(三七五)三三五〇</p> <p>貴首 酒井 日慈 執事 早水 日秀 役員一同</p>	<p>日蓮宗総本山 身延山久遠寺</p> <p>〒409 2593 山梨県南巨摩郡身延町身延 電話 〇五五六(二)一〇一一 FAX 〇五五六(二)一〇九四</p> <p>法主 藤井 日光 総務 井上 瑞雄</p>
<p>本門佛立宗本山 宥清寺</p> <p>〒602 8336 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇五―一 電話 〇七五(四六三)四六二(代) FAX 〇七五(四六三)四六五一</p> <p>住職 小山 日誠 二十四世講有 執事 田中 清希 事務局長 伊藤 隆之</p>	<p>多寶富士山 日蓮宗 本山要法寺</p> <p>〒602 8418 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五 電話 〇七五(四五)三五二七 FAX 〇七五(四五)三五九七</p> <p>貴首 嘉儀 日有 大学 頭 丹治 日遠 執事 桐生 信行 執事 岩崎 広義 執事 渡邊 光顕 執事 西尾 弘道</p>	<p>本門法華宗大本山 妙蓮寺</p> <p>〒602 8418 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五 電話 〇七五(四五)三五二七 FAX 〇七五(四五)三五九七</p> <p>貴首 高邊 日援 執事 石崎 光教 役員一同</p>	<p>法華宗(真門流)総本山 本隆寺</p> <p>〒602 8447 京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町 電話 〇七五(四四)五七六二 FAX 〇七五(四四)五六六六</p> <p>貴主 上川 日乾 執事 矢多 信正 執事 本立 真正 書記 笹木 研吾 書記 永岡 悠希</p>
<p>日興上人御廟所 日蓮宗大本山 富士山重須本門寺</p> <p>〒418 0112 静岡県富士宮市北山四九六五 電話 〇五四四(五八)一〇〇四 FAX 〇五四四(五九)〇三〇三</p> <p>貴首 本間 日諄 参 与 井出 教道 参 与 藤先 博明 参 与 井野上 正文</p>	<p>日蓮宗本山 比企谷 妙本寺</p> <p>〒248 0007 鎌倉市大町一―一―一五―一 電話 〇四六七(二二)〇七七七 FAX 〇四六七(二五)六九六七</p> <p>貴首 加藤 日暉 執事 大埜 稔申 執事 立野 正泰 山務役員一同</p>	<p>京都八本山会</p> <p>大本山 本園寺 貴首 久村 諦道 大本山 妙顯寺 貴首 南條 孝仁 大本山 頂妙寺 貴首 永田 恵遠 本山 妙覺寺 貴首 頂岳 龍乘 本山 本満寺 貴首 伊丹 栄彰 本山 本法寺 貴首 大塚 泰詮 本山 立本寺 貴首 上田 尚正 本山 妙傳寺 貴首 野々垣 泰典</p>	<p>日蓮聖人出家得度の靈跡 大本山 清澄寺</p> <p>〒209 5505 千葉県鴨川市清澄三二二―一 電話 〇四(七〇九四)〇五二五 FAX 〇四(七〇九四)〇五二七</p> <p>別当 岡崎 日泰 団参には是非、研修会館をご利用ください。 一名八千円、一六〇名様まで可。</p>
<p>日蓮門下お題目初唱之靈場 日蓮宗東身延本山 藻原寺</p> <p>〒297 0026 千葉県茂原市茂原一―二〇―一 電話 〇四七五(二二)三二五三 FAX 〇四七五(二二)一一七三</p> <p>貴首 持田 日勇 執事 増田 寶泉 事務 富永 一 道 役員一同</p>	<p>日蓮宗本山 頂妙寺</p> <p>〒606 8376 京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六 電話 〇七五(七七)〇五六二 FAX 〇七五(七五)一〇〇四</p> <p>貴首 永田 恵遠 参 与 山田 信行 同 安藤 隆司 同 伊藤 隆司 執事 藤井 照源 執事 藤井 照源 同 川部 陽雄</p>	<p>やくよけ祖師 日蓮宗本山 堀之内妙法寺</p> <p>〒166 0013 東京都杉並区堀之内三―四八―一八 電話 〇三(三三三)六二四一 FAX 〇三(三三三)五〇〇七</p> <p>山主 嶋田 日新</p>	<p>日蓮宗大本山 法華経寺</p> <p>〒272 0813 千葉県市川市中山二―一―一〇―一 電話 〇四七(三三四)三四三三 FAX 〇四七(三三四)一七九六</p> <p>貴首 新井 智光 執事 藤井 浩敬 参 与 田代 教雅 同 喜多村 雅敬 同 渡辺 行俊 同 植田 文樹 同 吉田 文樹</p>

門連時報

全門連京都理事会・懇親会、日蓮宗本山立本寺で開催



●日蓮聖人門下連合会 京都理事会 平成17年11月24日

平成十七年十一月二十四日(木)、日蓮宗本山立本寺(上田尚正貫首)に於いて「全門連京都理事会・懇親会」が開催され、各本山貫首をはじめ門連役員あわせて約四十名が参加した。

午後一時半より客殿にて上田尚正貫首による「立本寺の沿革」についてお話をうかがった後、続いて京都造形芸術大学栗本徳子先生より「江戸期の立本寺の変遷と立本寺をささえた人々」というテーマで講演いただいた。

午後二時半より客殿にて上田尚正貫首による「立本寺の沿革」についてお話をうかがった後、続いて京都造形芸術大学栗本徳子先生より「江戸期の立本寺の変遷と立本寺をささえた人々」というテーマで講演いただいた。

午後二時半より客殿にて上田尚正貫首による「立本寺の沿革」についてお話をうかがった後、続いて京都造形芸術大学栗本徳子先生より「江戸期の立本寺の変遷と立本寺をささえた人々」というテーマで講演いただいた。

だき、大変貴重なお話を拝聴することが出来た。

引き続き、午後二時半より常任理事会が開催された後、午後三時より京都理事会が開催された。参加者各自の自己紹介の後、中條令紹全門連理事長代理が座長となり、議題について議事を進行。

全門連上半期事業報告、京都門下連合会の活動報告、大阪門下懇話会の行事並びに活動報告があった。その他にも降誕八〇〇年慶讃事業に向けての活発な議論が展開された。

会議終了後、懇親会の席をホテル嵐亭へと移し、京料理を満喫した。

今回種々お世話いただきました京門連の各聖、立本寺の皆様には厚く御礼を申し上げますと共に、今後とも門下発展の為に御尽力賜り度く重ねてお願い申し上げます。

日蓮聖人門下青年会

日蓮聖人門下青年会は、「日蓮聖人の教風を奉じ、門下の青年僧を以て組織し、布教・教学・現代社会の諸問題の研鑽と、会員相互の連帯・親睦を図る目的とする」団体です。

前年度は、真門流総本山本隆寺を会場として、月一回の寺子屋を開催いたしました。今年度は、まだ方針が決定しておりませんが、当初の目的を胸に抱き企画したいと思っています。

今年度の役員は、左記の各氏です。

- 幹事長 日蓮宗妙蓮寺住職 清田学英師
- 副幹事長 日蓮宗法華寺住職 杉若恵亮師
- 副幹事長 法華宗真門流宣命院内 笹木研吾師
- 庶務 日蓮宗通妙寺内 谷口真也師
- 幹事 日蓮宗通妙寺内 谷口真生師
- 幹事 日蓮宗法華寺住職 三木天道師
- 幹事 法華宗陣門流詮量院住職 三品亮徹師
- 幹事 日蓮宗法華宗大慈院住職 小川正義師
- 幹事 日蓮宗実報寺住職 嘉儀吉裕師
- 庶務 本門法華宗堅樹院住職 末本樹哉師
- 會計 日蓮宗勝光寺住職 藤田尚哉師
- 幹事 法華宗本門流本行院住職 高橋宏顕師

▼人事(事務局への連絡日を含む)

年月日	氏名	宗派	門連役職	就任/退任
平成一八・二・二三	川口日唱師	法華宗本門流	顧問	就任
平成一七・二・二五	岡本日巨師	法華宗本門流	顧問	退任
平成一七・二・二五	渡辺俊岳師	法華宗本門流	常任理事	退任
平成一七・二・二五	原井慈鳳師	法華宗本門流	常任理事	退任
平成一七・二・二五	佐藤義賢師	法華宗本門流	理事	退任
平成一七・二・二五	矢吹慈英師	法華宗本門流	理事	退任
平成一七・二・二五	有田秀達師	法華宗本門流	理事	退任
平成一七・二・二五	加藤信浄師	法華宗本門流	理事	退任
平成一八・一・一	久村日鑿師	京都門下連合会	顧問	退任
平成一八・一・一	中山日曉師	京都門下連合会	顧問	退任
平成一八・一・一	杉若恵隆師	京都門下連合会	常任理事	退任
平成一八・一・一	大川定信師	京都門下連合会	常任理事	退任
平成一七・五・二〇	赤塚高明師	京都門下連合会	理事	退任
平成一七・五・二〇	杉若恵隆師	京都門下連合会	理事	退任
平成一七・一〇・一	小林正雄師	門連事務局		退任
平成一七・一〇・一	渡邊言之師	門連事務局		退任
平成一七・一〇・一	木村朋寛師	門連事務局		退任

毎月3回お届けします。信仰・ふれあい・笑顔…

宗門唯一の 日蓮宗新聞

伝道機関紙

毎月1日・10日・20日

年間購読料3,600円(送料込)

教誌



一冊350円(送料別)

年間購読料1,700円(送料込)

○年4回発行

お正月(1月号)/春季彼岸(3月号)

お盆(7月号)/お彼岸・お会式(9月号)

詳しくは…

(株)日蓮宗新聞社

〒146-0082 東京都大田区池上7-23-3

TEL.03-3755-5271 / FAX.03-3753-7028

nichiren@t3.rim.or.jp

http://news.nichiren-shu.jp/

(業務時間 午前9時30分~午後5時)

日蓮宗新聞社のお店

〒146-0082 東京都大田区池上4-18-1

TEL&FAX.03-3755-6462

(業務時間 午前10時~午後4時)

※いずれも土・日・祝・祭日休み

